



明けまして おめでとう御座います

皆様 夢いっぱいの良いお年をお迎えのことお慶び申し上げます。

皆様方のご支援とご協力に支えられ、恒星会も発足以来 10 回目のお正月を迎えることが出来ました。

会の運営、企画開催のイベントも安定した状態で進捗して居ります反面、マンネリ化、硬直化の部分も出てきているやもしれず、10 年を期にいろいろな面での見直しと若返りを考える時期でもありましょう。

恒星会の更なる発展をめざし、皆様とともに考え、進めてまいりましょう。



さて、世相に目を移せば、多くの国民が自民党の長期政権による歪の修復を願い、政権交代を実現しました。新政権には沢山の希望を託し、大きな期待を抱きました。

世直しのために庶民がパワーを集結し、勝利を勝ち取ったと揚々とした気分になっておりました。しかし、世の中、そんなに甘いもんではありませんでした。

混沌とした状況を見るにつけ、なにが違ったのだろうか、どこか見間違いをしていたのだろうか、こんなはずではなかった。これは期待の大きさに比べてしまうから、その落差を厳しく感じてしまうのであろうか。

庶民の素朴な感覚からしても、これはちょっとどうかしら、ちょっと違うのじゃないかしら、もうちょっとしゃきっとできないものかしら、もうちょっと盛大に自信を持って堂々と出来ないものかしら。などなどと考えてしまう。為政者のうつわ、資質なんてものは事前に庶民に分かれなどといっても、それは無理でしょう。分かりっこないでしょう。選んだ国民の責任だなんて言われてもそれはちょっと困りますよね。同じドングリから選んだところで、選ばれるのはまた同じドングリだから、どうしようもないよね。選ばれる前に、自分は選ばれるに相応しいドングリかどうか、本人がよ～く考えてほしいものだ。

自分は選ばれるべきドングリだと自信を持って出てきたのだろうか。だとすればえらい思い上がりか、なんか勘違いしているのだろうか。

長引く経済不況、抜け切れない借金財政、北から南からの領土侵略、資源・原料による首絞め、近所からはきな臭い匂いが立ちこめる中、のほほんとドングリの背比べをやって居られる我が国は、他から見れば本当にうらやましい平和な国に見えるのかもね。

2011 年年頭に当たり、自他共に認める真の平和な国家であり続けようにと、祈らずには居られない。

日本は清潔で、正直で、頭のいい民族が、仲良く暮らしている現代のユートピアと思っている世界の人々に失望してもらいたくないから。

老人性の高血圧は病気ではない？

最近、医療講演会が近くであり参加した。血圧の話では、「年配者の血圧が高くなるのには訳があり、基準値を超えたからといってすぐに劇薬である薬を飲んで下げる必要は無いですよ。高いほうの血圧が 140 を超えたら、すぐにでも薬を飲んで治療を始めないと大変なことになりますよと脅かされているが、そんなことはありません。歳をとると血管は次第に柔軟性が失われ硬くなります。若い人の血管は柔軟性がありしなやかで心臓のポンプで押し出された血液がスムーズに流れるが、硬くなった血管では、身体の隅々まで血液を送ろうとすると、心臓のポンプはその分だけ強い力で血液を送り出さないと届かなくなってしまう。このために、賢い身体は自ら操作してポンプの力を強くします。つまり圧力を強くして身体の隅々にまで血液を送り届けるようにします。これが血圧を上げるという自然な現象なのです。貴方の可愛いからだ判断して対応しているのだから、はたから要らぬおせっかいをして薬など飲んで無理やり圧力を下げなくてもいいでしょう」というのが三重大学医学部出の博士が言われる内容です。

言われてみればなるほど納得の出来る理由なのですが、しかし、現在まで私が信じて実行している内容とは少々違ってきます。掛かりつけのお医者さんの指導でも、書物で仕入れた知識でも、一貫して血圧は下げなさい。高い血圧は、血管の内壁を傷めることになり動脈硬化を昂進させ、血圧を上げる悪循環となってしまいます。自覚症状がないためほっておくと心筋梗塞、脳梗塞、腎不全、眼底出血などなど怖い病気になりますよ。血圧は下げれば下げるほどよく、長生きが出来ます。と言う。

現在ほとんどのところで、血圧は下げなさい。薬を飲んで強制的にも下げることにより、危険な病気から回避しなさい。と言う意見が大勢を占めております。

いま、「薬は必要ないから飲まなくて良い」と言われても、にわかに「ハイ分かりました飲みません」と言うのはちょっと怖いし、かといって博士の云う「自分の身体が反応して対処している自然の摂理」も納得が出来、飲まなくてよければその方が良いし

困ってしまいますね。

そういえば私の親父は晩年、「血圧は自分の年齢に 90 を足した数までは大丈夫だ」と威張って 100 歳を超えてしまった。親父とは身体の成り立ちが違い、片や明治の自然児と、片や昭和極貧の栄養不良児とでは、比較対照の参考にもならないだろうし……